～福岡県の地域コミュニティ情報誌～

きずな

No.24
令和6年3月発行

［目　次］

あんずの里市利用組合（福津市）・・・・・・・・・・・1, 2
桂川「ひまわり」アンビシャス広場（桂川町）・・3, 4
県庁お知らせ掲示板・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

福岡県 Fukuoka Prefecture

編集・発行　福岡県 企画・地域振興部 政策支援課
TEL：０９２（６４３）３１７８
FAX：０９２（６４３）３１６４

□あんずの里市利用組合（福津市）

あんずの里市利用組合がもたらす地域交流

～あんずの里市利用組合（福津市）～

福津市は、福岡市と北九州市の中間に位置しており、ここで暮らす人々・ここに訪れる人々に「幸福（福）」になってほしいという願いと、たくさんの人々が集まり交流する「港（津）」のような街でありたいと、旧福間町と旧津屋崎町が合併し、誕生しました。

福津市は都市圏に近い環境にもかかわらず、豊富な自然や史跡も残されており、古くから続く歴史や文化が息づいてます。

今回取材したあんずの里市利用組合がある津屋崎地区は江戸時代から明治にかけて塩田が多くあり、当時は塩の積出港として大変賑わっており、現在でもその町並みに当時の面影をとどめるとともに、海岸線に沿って農業が展開され、温暖な気候を利用して、タマネギ、バレイショなどの栽培が盛んです。

▲あんずの里市利用組合で働かれている
花田　砂惠子事務長

あんずの里市利用組合のはじまり

あんずの里市利用組合は、津屋崎地区の活性化を目的として、平成４年に津屋崎町農業農村活性化推進協議会として設立され誕生しました。当時では珍しく、女性が中心となって設立した団体とのことです。

活動を進めていくにあたり、もっと地域が元気になるようなことはできないかということから、初代組合長であった井ノ口ツヤ子氏が中心となって、平成６年３月に軽トラックの荷台を利用した「青空市」を開催したのが始まりだそうです。

最初はお客さんも少ない状況であり、生産者同士の物々交換で活動していましたが、徐々にお客さんが増えていき、もっと盛り上げていくことができないかと考えるようになりました。

ただ、青空市の知名度の低さ、常設の直売所を設置することの難しさ、女性主体の活動に対する反発など活動は大変苦労したそうです。

それでも、井ノ口氏を中心に活動を続けていった結果、平成８年にあんずの里市利用組合を組織し、常設の直売所を設置することができたとのことです。

立ち上げ当時の人数は約３０名でしたが、現在は正組合員と准組合員を合わせて、約３００名まで増えています。

あんずの里市利用組合の活動

あんずの里市利用組合の活動は、農林水産物等の直売をメインでおこなっており、「笑顔があふれ、選ばれる直売所を目指して」を合言葉に品質の良い商品の品揃え、提供はもちろん、お客様とのふれあい、交流をモットーにあんずの里市のファンの拡大を図りながら活動を行っています。

その結果、地域内外の多くの人が新鮮な農林水産物などを求めて、朝早くからこの場所を訪れています。

▲地元の新鮮な野菜を販売している直売所

様々な取組を通じた地域交流

あんずの里市利用組合では、農林水産物の販売だけでなく、地域の活性化に繋がる取組も数多く行っています。

まず、地域の子供たちのために、市内の学校給食への食材提供や給食交流会を実施しています。

学校への食材提供は、地元の新鮮な食材を食べてもらいたいとのことから、小中学校合わせて９校に毎日おろしているそうです。また、給食の際には、生産者等について、アナウンスをおこなっています。

給食交流会では、組合の役員が学校を訪問し、子供たちに直接地元食材に関する説明を行うなど、地元食材に触れる機会をつくることで、子供たちの地元に対する愛着や誇りを醸成しています。

交流後は子供たちからの感想が送られてきており、それを生産者が見ることで、生産の意欲に繋がっているとのことでした。

▲子供たちからの温かい言葉の数々

また、高齢者のために、移動販売も実施されているそうです。

元々は、販路拡大を目的としていたそうですが、スーパーなどが無くなっていたり、交通手段が無い高齢者がいることから、地元からのお願いを受けて、移動販売を続けているとのことでした。

この活動は結果的に高齢者の触れ合いの場の提供や安否確認にもつながっており、地域に貢献していると感じているとのことでした。

さらに、地域内外の交流事業や交流イベントも実施しており、交流事業では市内の都市部向けにジャガイモ堀り体験やフラワーアレンジメント教室を、交流イベントでは地元向けに、あんず祭りや案山子コンテストを実施しており、あんずの里が多くの人の交流の場として機能しているとのことです。

▲交流イベントなどを通じて、地域内外から多くの人が訪れている

活動を通じてよかったこと

この活動を通して、①農家、漁家の所得の向上、②農村女性の地位の向上や生きがい対策、③高齢者の生きがい、健康づくり、④雇用の場の確保、⑤都市住民と農村の交流、⑥農村の活性化・イメージアップに繋がるなど、数多くの良かった点をあげられており、組合が地域の活性化で様々な役割を担っていると感じました。

花田さんに、特に良かった点をお聞きしたところ、「女性を中心とした活動ができたことは、当時の状況を考えると先進的な取組だと思う。この取組によって、女性の地位向上に繋げることができ、また、その活動を継続することができて、とてもよかった」とのことでした。

今後の目標

様々な取組をおこなっているあんずの里市利用組合ですが、課題もあるとのことです。特に組合員の高齢化や後継者不足については、喫緊の課題であり、今後活動を続けていく上でも重要な課題であるとの認識でした。

そのような状況でも農村女性を中心に生産者自らが運営する直売所として頑張っていることを地域内外に知ってもらい、地域活性化の拠点の存続・強化や都市住民との交流を担う場として、今後も頑張っていきたいとのことでした。

子どもたちとともに創る新しい地域づくり

～桂川「ひまわり」アンビシャス広場（桂川町）～

桂川町は福岡県のほぼ中央に位置し、福岡市まで電車で約３０分、隣接する飯塚市街まで車で約２０分と、小さな町ながら利便性の高さを有しています。また、緑豊かな自然と、王塚古墳など、古代の歴史文化あふれる町です。

今回は、そんな桂川町で活動する、桂川「ひまわり」アンビシャス広場の久留島さん、河部さんにお話を伺いました。

▲ボランティアとして委員を務める久留島さん（右）と河部さん（左）

活動のはじまり

桂川「ひまわり」アンビシャス広場は、平成１５年に、「児童が放課後や休日に気軽に安心して自由に遊べる居場所をつくりたい」との思いで始まりました。その思いに賛同した方々がボランティアとして集まり、３８名もの方が立ち上げに関わられました。現在、定年退職を迎えられた方などを中心に、ボランティアは３０名おり、通常は７～８人の体制で見守り等の活動を行っています。

久留島さん・河部さんは「広場で遊んでいた子どもが将来的に地域の行事に参加してくれれば嬉しい」と思いを語ります。

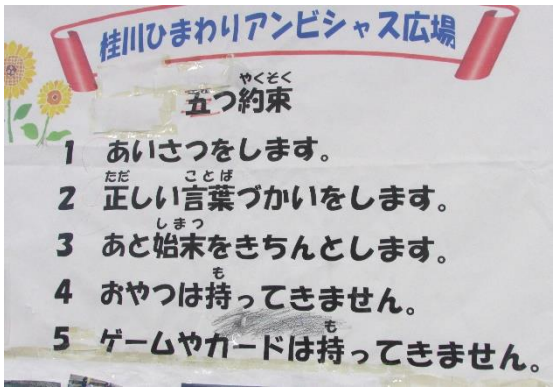
児童が安心して遊べる居場所づくり

桂川「ひまわり」アンビシャス広場は毎週木曜日と土曜日に桂川東小学校の体育館で開設しています。毎回、５０～８０人の子ども達が遊びに来て、元気いっぱいに走り回っており、久留島さんたちボランティアは見守りをしたり、子どもたちと一緒にボール遊びをしたりしています。

体育館での自由遊びのほかにも色々な体験活動を行っており、毎月一回、指導者の方を招いて茶道をしたり、俳句を作ったりしています。取材に伺った日がちょうど茶道の日で、子どもたちは「今日はお茶の日だ」「広場に来るのが遅くなったが、まだ間に合うかな」と口々に話しており、月一回の行事を楽しみに待っている様子でした。

また、ボランティアの方々は児童の登下校時には見守りあいさつ運動を行ったり、小学校の朝礼の時間に読み聞かせを行ったりしています。

▲桂川「ひまわり」アンビシャス広場が開かれている桂川東小学校



▲桂川「ひまわり」アンビシャス広場に掲げられている５つの約束

地域とともにある学校

桂川「ひまわり」アンビシャス広場は、子どもたちだけではなく、地域の方々ともつながりをつくっています。

例えば、１月に６年生の卒業を祝う「餅つき大会・どんど焼き」を開催しました。新型コロナウイルスの影響で、４年ぶりの開催となりましたが、当日は子どもたちだけでなく、保護者、地域の方など多くの方が参加しました。

河部さんは、「校区の人たちが集まることで、地域の団結につながったのではないか」と語っていました。

また、桂川東小学校の１年生と幼稚園児を対象に、芋の苗植え・収穫体験なども行っています。そのお礼として、ボランティアの方が幼稚園に招待されているそうです。

▲桂川東小学校の児童が餅つきを行う様子

▲つきたての餅を丸める様子

この活動を行ってよかったこと

活動を行って良かったと思う瞬間については、子どもたちが卒業し中学生、高校生となった時に広場に遊びに来て後輩の児童と遊んでくれること、町内で会ったときに駆け寄って挨拶をしてくれたりすることだそうです。

また、久留島さんは活動を行う前は関わりがなかった小学生の保護者の方や地域の方から声をかけてもらうこともあるそうです。

普段の活動に加えて、地域を巻き込んだイベントを行うことで、児童だけではなく地域の方との交流の機会が生まれ、校区全体での地域づくりにつながっているのではないかと感じました。

河部さんは、「地域住民の方にもこの広場の活動の事を知っていただきたい。児童の居場所づくりだけでなく、参加するボランティアの方々の居場所にもなっていけると良い」とおっしゃっていました。

取材の最後には、「子どもたちとともに、地域・校区づくりを行い、『支えあう』『つながる』社会を創りたい」と今後の目標を力強く語ってくれました。

県庁お知らせ掲示板

こどもエコクラブにご登録ください！

こどもエコクラブは、幼児（3歳）から高校生まで誰でも参加できる環境活動のクラブです。自分たちの興味関心のある環境保全活動や環境学習を通して、子どもたちが人と環境の関わりについて幅広い理解を深め、地域の環境保全活動の環を広げることを目的としています。登録料、年会費は無料です。登録すると、活動中の事故に伴う賠償をサポートする「賠償責任保険」の対象となるほか、協賛企業から活動に役立つグッズの進呈などもあります！

詳しくは、ホームページをご覧ください。
https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/jec.html